

# 英語塾DJ 英文法ドリル・構文編

## <名詞構文>

実は、英語は名詞大好き言語です。一方、日本語は述語動詞大好き言語です。  
動詞や形容詞から派生した名詞を述語らしく訳すことで、ナチュラルな和訳にすることができます。

**名詞構文：動詞派生または形容詞派生の名詞に、  
意味上のS, O, C, Mがついて、SV構造のような形をしているもの。**

要するに、動詞派生・形容詞派生の名詞をVと見立てることが大切なのです。  
ここでは、事実上のSとVを見つけて、ナチュラルな和訳になることを心がけてみてください。

(例)

¶ Consideration of others is the basis of good manners.  
          V'                  O'

“consideration of others”を「他人の考慮」と和訳するのではなく、  
これを名詞構文とらえて工夫して和訳することで、こなれた日本語にすることができます。

considerationをVと見立て、そしてothersを目的語と見立てて、  
「他者を考慮すること」「他人を思いやること」と訳するのが、日本語訳としては良く、英語の解釈としても間違いがないです。

¶ His love of the girl became known to everyone.  
          S'      V'          O'

これを、「彼の、その女の子の愛」などと和訳していたら、解釈が怪しくなってきます。  
やはり、loveを動詞派生と見立てて、「愛すること」と訳していきます。  
「彼が女の子を愛していることは、みんなに知られてしまった。」という意味です。

なお、名詞構文は無生物主語との組み合わせになることが多いです。  
そのあたりも気をつけて訳出していきましょう。

**問題：**次の英文を和訳せよ。

上記の例にならい、構造は名詞構文を構成する名詞の範囲内だけ記すこと。

1. ¶ She is glad about her husband's safe return from the voyage.

訳：

2. ¶ The sudden appearance of the bear terrified the hikers.

訳：

3. ¶ Reporters were waiting for the arrival of the President.

訳：

4. ¶ On his sudden entrance into the meeting room, the other members fell silent.

訳：

# 英語塾DJ 英文法ドリル・構文編

## ＜強調構文： not A but B の強調＞

「…なのは、A ではなく B だ」という強調構文は、よく見る形です。しっかり学習しましょう。

(例文)

- |  |             |
|--|-------------|
| ¶ It was not Tom but Jim that came to see me.  | ← 強調構文      |
| = It was not Tom that came to see me, but Jim. | ← 文末をさらに焦点化 |
| = It was Jim that came to see me, not Tom.     | ← 文末をさらに焦点化 |
- : 私に会いに来たのは、トムではなくてジムだった。

「私に会いに来たのはトムではなかった。ジムだった。」

「私に会いに来たのはジムだった。トムではなかった。」などと訳しわけるとよいでしょう。

いずれにしても、not A but B の構造が文の前後に分裂しますので、気をつけましょう。

**問題:** 次の英文の構造を示し、和訳せよ。

- ¶ It was not I but my sister who spoke to you on the telephone.  
訳 :
- ¶ It is not the destination, but the journey that matters!  
訳 :
- ¶ It was not because Tom wanted to see me that he came here; because he wanted to see my daughter.  
訳 :
- ¶ It is not the answer that enlightens, but the question.  
訳 :
- ¶ It wasn't so much what George said as the way he put it that annoyed me.  
訳 :
- ¶ It is not raising tax but implementing fair public policy that we should turn to for the creation of a society where we can enjoy a high standard of living.  
訳 :
- ¶ It is not so much your talent that counts in your life as your pleasing personality.  
訳 :

# 英語塾DJ 英文法ドリル・構文編

## <主語繰り上げ構文>

英和辞典 Genius 第4版 で紹介されている「主語繰り上げ構文」について紹介します。

- a. It seems that Bob is a nice guy. : ボブはいいやつだと思われる。
- b. Bob seems to be a nice guy.

上記例文2つとその解説は、Genius の、“seem”の項目で各自確認しておきましょう。

bの例文を、「主語繰り上げ構文」と呼びます。

それは、aの例文における節内の主語の Bob が文頭にあげられたからです。

ただ、構文の解釈としては、

- a: it は体裁・漠然とした状況を表す(仮 S ではない)。that 節が名詞節で C。第2文型。
- b: seem to は助動詞と考えて構わない(厳密には、不定詞句は形容詞的用法で C)。

と考えられます。

言い換えると、seem を文頭に持ってきたのが a、文中に組み込んだのが b、です。

≪ 注:ありがちなおおまちがい ≫

【誤】 Bob seems that he is a nice guy. ← S = C の関係にならないから不可

問題: 次の英文を、主語繰り上げ構文に書き換え(9番まで)、和訳せよ。

1. ¶ It seems that he made a mistake on that point.

=

訳:

2. ¶ It is likely that Tom will run for governor.

=

訳:

3. ¶ It happened that I saw her in the park yesterday.

=

訳:

4. ¶ It turned out that the plan was impractical.

=

訳:

# 英語塾DJ 英文法ドリル・構文編

## <クジラ構文 no+比較級 の構文>

¶ A whale is no more a fish than a horse is.

: クジラは馬と同様、魚ではない。



これがいわゆる悪名高いクジラ構文ですが、  
次ことをイメージしておくとう理解しやすいです。

1. than の後ろに“前提”がある。
2. 比較級は、真に受けちゃダメ。尺度、である。
3. 比較級の直前の no は、差がないこと(同じ程度)を表す。

以下、順を追って説明します。

He is tall. ⇒ 彼の身長は高い。

He is taller than she. ⇒ 彼の身長は高い、とはいえない。

“tall”という尺度において、彼が彼女に勝っている、という意味。

このように、比較級になっている形容詞“taller”は、そのまま判断できないわけです。

He is taller than she. という文で、彼の身長が1m15cmであることだって、十分にあるわけです。

taller は尺度に過ぎず、これを tall と考えちゃダメというのが比較級の難しいところです。  
その判断ができるとしたら、それは結局のところ、比較相手次第です。

<例> He was taller than Rui Hachimura. ⇐ 高い！

さて、比較級の前にはさまざまなMをおきますが、それらは差を表します。

He is much taller than she. ⇒ でも、彼の背は高いかどうかわからない。

He is 3 centimeters taller than she. ⇒ でも、彼の背は高いかどうかわからない。

He is no taller than Draemon. ⇒ 彼の背は、低い！！

(彼はドラえものの身長を全く超えない、同じ。)

上記例文で気をつけなくてはならないのが、上2つは、彼の身長が高いのかわからない、ということです。つまり、相対概念で、彼は「背の高さ」という尺度において勝っている、という意味です。比較相手次第では、彼の背は高いと言えます。

しかし、“no taller”になった場合は、これは「彼の身長は高くなくて、低い」と判断します。

なぜなら、than 以下には前提があって、比較相手は背の低い人(ネコ型ロボット)だからです。